

SHIZGAS

株主の皆さまへ

第176期 中間報告書 2023年1月1日～6月30日



証券コード：9543

地域共創実現を掲げた「2030年ビジョン」のもと、 戦略的な事業展開と企業風土の改革を加速し 株主の皆さまのご期待に応えてまいります

2023年度上期の経営環境と 業績を教えてください。

昨今、エネルギー価格が高騰しており、節電に加え節ガスに取り組むご家庭が増えています。それに加え、気温が高めに推移したこともあり、家庭用ガス販売量は前年同期を下回りました。業務用ガス販売量も気温影響により空調需要が伸びず、前年同期を下回りました。夏場は高気温により空調需要が増えることを期待しています。工業用ガス販売量については、中国経済

の低迷や原材料費高騰による生産調整などに伴うお客さま設備の稼働減少などにより、前年同期を下回りました。

電力販売量は、家庭用、業務用こそ、前年同期を上回りましたが、工業用が大きく下回り、販売量全体では、前年同期を下回る結果となりました。

このようにガスや電力の販売状況は厳しいものとなりましたが、長期契約によるLNGの安定調達に努め、引き続き高騰が続くスポット市場からの調達を抑制したことが収益面に寄与しました。

「2030年ビジョン」の進捗状況をご説明ください。

当社グループは、「地域の皆さまと共につくる新しい価値創造のサイクル」を2030年ビジョンに掲げ、それまでの9年間で「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3つのフェーズに分けて推進していくことを打ち出し、社員の理解も深まりつつあると感じています。引き続き、的確な情報発信によるビジョンの浸透に努め、チャレンジ精神あふれる企業風土を確立してまいります。「ホップ（2022年ー2024年）」フェーズは、社員の意識改革を進めながら、ビジョンの中で新たな成長事業と位置付けた再生可能エネルギー事業や海外



代表取締役
社長執行役員
岸田 裕之

事業などをいかに軌道に乗せるか、非常に大切な3年間となります。

都市ガス・LPG事業では、都市ガスを製造する袖師基地の強靱化工事を無事に終えることができました（詳細P.3）。新工法を採用するなどの工夫を重ねた結果、投資金額は当初予定を下回りました。引き続き、安全・安心・安定供給に努め、継続的な成長につなげていきます。

再生可能エネルギー事業では、太陽光発電やバイオマス発電の開発を着実に進めるとともに、地域の未利用資源を活用した再生可能エネルギーにも取り組み、地域の課題解決にも貢献していきます（詳細P.5）。海外事業については、2021年に出資を決めたタイの産業用向け天然ガス供給事業で進捗が見られ、また2022年に進出したインドにおける事業基盤の構築に力を注ぎ、早期の収益化を目指します。

ビジョン実現に向けた課題は何でしょうか。

DX^(※)の推進と人的基盤の強化が課題です。DXについては、社内の業務効率化を進めていますが、まだできることがあると思っています。社員が働く席を自由に選択できるフリーアドレスを導入し、部門を超えたコミュニケーションを活性化させ、DXによる効率化のヒントが生まれることを期待しています。新たなビジネスとして、地域のデータ連携とデジタル技術を活用したステークホルダーとの共創による地域の課題解決に取り組んでいるところですが、まだ目に見える成果は上がっていません。スタートアップ企業への出

向によるデジタル人材の育成、そこで築いたネットワークを活用した連携を通じて、オープンイノベーションを加速していきます。

人的基盤の強化に関しては、目的を明確化した人材の育成が重要だと認識しています。DXや海外事業などの新規事業と導管部門などの既存事業の人材育成は異なるものです。そのため、管理職が将来のビジョンをもって部下を育成することの意識付けとともに、人材の採用や配置などを含めた人事戦略全体の中で体系的に取り組んでいきたいと考えています。

株主の皆さまにメッセージをお願いします。

2023年3月、静岡市道の経年ガス管入れ替え工事において、廃止したガス管は原則撤去しなければならないところ、地中に残置していたことを公表しました。ステークホルダーの皆さまにご迷惑、ご心配をおかけしましたことを深くお詫びいたします。このような不適切な行為はあってはならないことですが、社員の声で発覚したことが救いです。今後は再発防止策を徹底し、信頼の回復に努めてまいります。

当社は創業100年を超えましたが、次の100年も地域に安全と安心をお届けする企業グループであり続けるため、2030年ビジョンの具現化と2050年のカーボンニュートラルを目指して改革と進化を追求していきます。持続的成長に必要な投資を実行し企業価値の最大化を図りながら、株主の皆さまへも適切な利益還元を行ってまいります。株主の皆さまにはなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※DX デジタルトランスフォーメーション。企業がデータとデジタル技術を活用して、業務プロセスの改善や新たなビジネスモデルを創出すること。



激甚化・頻発化する災害に対して強靱化に取り組み、 ガスを安定的に送ることが エネルギー事業者としての責務です

清水エル・エヌ・ジー株式会社 取締役 所長

やまだ まさる
山田 優

袖師基地は製造した都市ガスを県内外に供給

清水エル・エヌ・ジー(株)は、静岡ガスが65%、ENEOS(株)様が35%出資する合弁会社として1992年に設立され、清水港に袖師基地を有しています。

袖師基地では、静岡ガスが輸入した液化天然ガス(LNG)を受入れ、都市ガスを製造しています。製造したガスは静岡県内だけでなく、INPEX(株)様のパイプラインを通じて山梨県、長野県、北関東のお客さまにも送り届けています。

災害時も速やかに復旧しガスを送り届けることが我々の責務

安全・安心・安定供給はもちろんのこと、災害時も速やかに復旧しガスを送り届けることがエネルギー事業者としての責務です。

袖師基地は、これまでも静岡県が公表する被害想定に基づき、法定より厳しい耐震基準で設計するなどの対策を行ってきました。

東日本大震災後、国による南海トラフ巨大地震の被害想定を踏まえ、静岡県は第4次地震被害想定を公表しました。袖師基地では想定される最新の地震データによる詳細な解析を行い、南海トラフ巨大地震の最大想定レベルの地震が発生した場合でも、基地の安全を確保し、速やかな運転再開を可能とするために強靱化工事を決定しました。総事業費は約40億円に上る大規模なプロジェクトとなりました。

様々な事態を想定した対策を実施

袖師基地は盛土により敷地全体で海拔6メートルを確保、3基あるLNGの貯蔵タンクについては海拔10～14メートルに位置し、想定される最大の津波の高さ5メートルに対応した設計となっています。これに加え、今回の強靱化工事では主に3つの対策工事を実施しました。

1つ目は、液状化による設備への影響を抑えるための工事で、岸壁沿いに全長約500メートルにわたり地盤補強用の鋼管の杭(直径1.2メートル、長さ27

メートル) 約400本を打設しました。

2つ目は、LNGを気化するために使用する海水を汲み上げる取水ピットの補強工事です。液状化現象による浮き上がり防止や地盤隆起が起こっても取水ができるよう、地盤改良とポンプ改造などの対策を施しました。

3つ目は、輸入したLNGをタンカーから荷揚げして貯蔵タンクに送り込むアンローディングアームの補強です。全高が高く、地震動の影響を受けやすい設備であることから「ベースライザー」と呼ばれる基軸部分の補強を行うことでアーム全体の揺れを抑える対策を施しました。



アンローディングアーム



強靭化工事

社員教育や訓練でさらなる安全・安心を

袖師基地の施設や設備などハード面の対策は完了しました。これからは、袖師基地で働く社員の教育や訓練を重ね災害への対応力を高めるなどソフト面での対策に取り組み、安定供給に努めることで、地域の皆さまのくらしや産業を支えています。

株主さま向け

清水エール・エヌ・ジー(株)袖師基地見学会のご案内

株主の皆さまの日頃からのご支援への感謝と、当社事業に対するご理解をより深めていただくことを目的に「株主さま向け施設見学会」を開催いたします。

対象	2023年6月末時点で100株以上を保有する株主さま
見学場所	清水エール・エヌ・ジー株式会社 袖師基地 静岡県静岡市清水区袖師町1900番地
実施日時	①2023年11月16日(木) 14:00~16:00 ②2023年11月22日(水) 14:00~16:00
募集人数	各20名程度(ご同伴者さまを含む) ※ご同伴者1名(小学生以上)を含めた2名までご参加が可能です。ご応募の際にご同伴者さまの有無をご選択ください。
集合場所	静岡市内(当選者さまにご案内します)
応募方法	同封のアンケートはがきに必要な事項をご記入の上、ご応募ください。 ※2023年9月末日当社到着分まで
抽選	応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。 当選者さまへのご連絡のみとさせていただきます。 (10月上旬頃に郵送にてご連絡予定)
参加費	無料 ※ご自宅から集合場所までの往復交通費、宿泊費等は、株主さまのご負担とさせていただきます。 ※駐車場はご用意しておりません。
その他	※当選した権利を他人に譲渡することや、金銭と交換等することはできません。 ※天候、見学施設の事情等により、やむを得ず見学会を延期・中止する場合がありますので、あらかじめご了承ください。なお、見学会を延期・中止する場合には、郵送または電話にてご連絡させていただきます。見学会の延期・中止または変更により株主さまに生じる費用等については、株主さまのご負担となります。





地域における再生可能エネルギー開発を推進し カーボンニュートラルの実現と地域の課題解決に貢献します

静岡ガス株式会社
グローバル・エネルギー本部
電力・環境部長

うえき きたし
上木 敏

2030年に20万kWの再生可能エネルギー 電源を開発

当社グループは、2050年に温室効果ガスの排出を全体でゼロにするカーボンニュートラル実現に向け、再生可能エネルギーの新規開発や事業参画を進めています。2030年に再生可能エネルギー電源20万kWの開発を目標に掲げ、太陽光発電やバイオマス発電の開発などに取り組んでいます。

電源開発からメンテナンスまでの一体化を確立

足元では、太陽光発電やバイオマス発電をターゲットに開発を進めていますが、中長期的には風力発電や水力発電など他の再生可能エネルギー開発に取り組むことも視野に入れています。

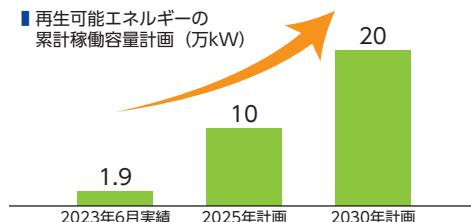
太陽光発電は、静岡県内を中心に東海地方や北関東など約1.9万kWが稼働しています。また、新たな太陽光発電の形として、耕作放棄地の活用や農業の活性化といった地域の課題解決につながる営農型太陽光発

電^(※)にも取り組みました。

バイオマス発電は、山形県の鳥海南バイオマス発電事業（2024年度中運転開始予定）や愛知県の田原バイオマス発電事業（2025年4月運転開始予定）への出資参画に加え、静岡県袋井市において静岡県産の未利用間伐材を中心とした国産材を主燃料とする遠州フォレストエナジー発電事業への参画を決定しました。

2022年には、太陽光発電開発を手掛ける㈱イクト様と太陽光発電設備のメンテナンス会社を設立しました。開発からメンテナンスまでの一体化で効率化を図るとともに、太陽光発電の安定稼働を実現させ、地域の再生可能エネルギーを最大限に活用していきます。

当社グループは、2030年ビジョン実現に向け、これまで得た知見やノウハウを活かし、地域における再生可能エネルギー開発を進めるとともに、地域資源の有効活用など地域の課題解決にも取り組んでいきます。



※農地に支柱を立て上部空間に太陽光発電パネルを設置し、太陽光発電事業と同時にパネルの下で農作物を栽培する取り組み

静岡県袋井市における大規模営農型太陽光発電所開所について

当社グループ会社で発電事業を担う静岡ガス&パワー(株)は、静岡県を中心に野菜の生産などを手掛ける(株)鈴生様と、静岡県袋井市の約2.5ヘクタールの土地で、発電容量約1,980kWの太陽光発電とソバ栽培を組み合わせた営農型太陽光発電所を開所しました。

本発電所は、長らく耕作されていなかった農地を活用します。太陽光発電設備は2023年4月に設置し、すでに稼働しています。静岡ガス&パワーが太陽光発電事業の管理・運営を行い、鈴生様が太陽光パネルの下でソバの栽培・育成、販売を行います。収穫したソバは食品会社に販売するほか、当社ショールームが行う料理教室で活用していきます。



太陽光パネル



パネルの下で行うソバ栽培

静岡県袋井市における国産材100%利用のバイオマス発電所への出資について

静岡ガス&パワーは、地産地消型木質バイオマス発電開発などを手掛けるフォレストエナジー(株)様が設立した「遠州フォレストエナジー合同会社」に出資しました。

本合同会社は、静岡県袋井市において、静岡県産の未利用間伐材を中心とした国産材を100%利用した7,100kWの「遠州フォレストエナジー発電所」を建設中で、2024年12月の運転開始を目指しています。燃料となる木材については、静岡県産の未利用材を主として調達するほか、木の枝や根元部、樹皮も収集・活用する計画です。



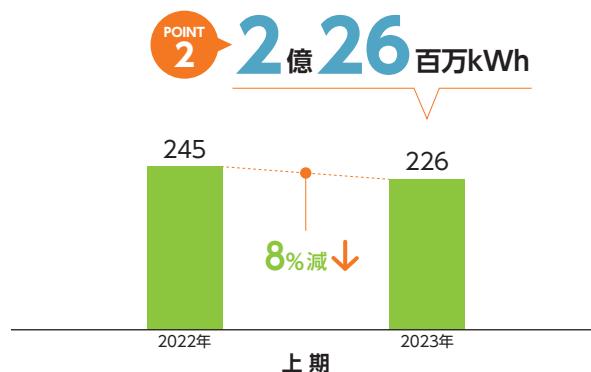
完成イメージ図

業績ハイライト

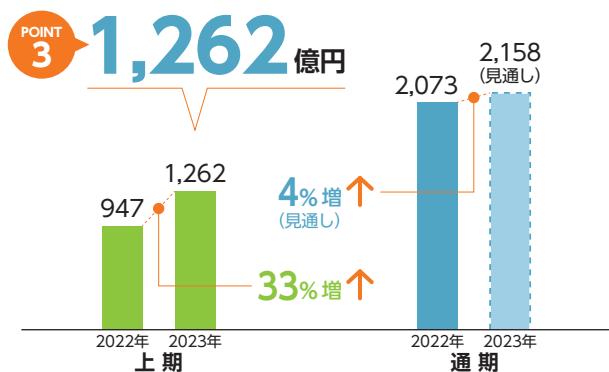
■ ガス販売量 (個別) (単位:百万m³(45MJ))



■ 電力販売量 (卸売を除く) (単位:百万kWh)



■ 売上高 (単位:億円)



■ 営業利益 (単位:億円)



※2023年通期見通しは、為替レート150円/ドル (8月以降)、原油価格 (全日本CIF) 85ドル/bbl (8月以降) の想定です。

株主の皆さまの声を ご紹介します。

前回アンケートでいただいたコメントを一部抜粋し掲載しております。ご協力ありがとうございました。

事業成長による高配当を望みます。

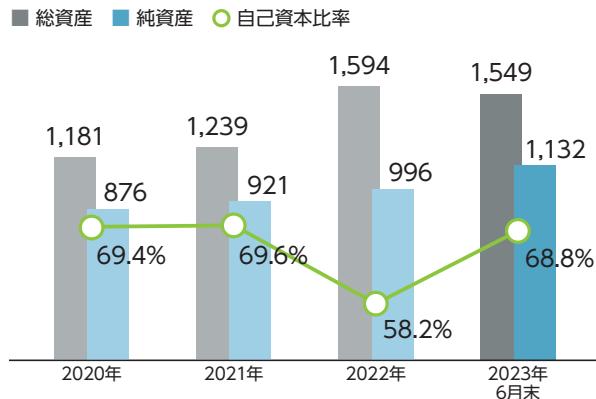
施設見学会の再開をお願いしたい。

コロナ禍での事業継続は大変だったでしょうし、ウクライナ侵攻によるコスト暴騰で難しい局面とも思いますが、頑張ってください。

POINT

- 1 ガス販売量は、工業用のお客さまの設備稼働減などにより、前年同期を下回りました。
- 2 電力販売量は、市場価格高騰などで一時的に獲得数を抑制したことなどにより、前年同期を下回りました。
- 3 売上高、営業利益は、ガス販売量は減少したものの原料費調整制度によるガス販売単価の上方調整などにより、前年同期を上回りました。

■ 総資産・純資産 (単位:億円)



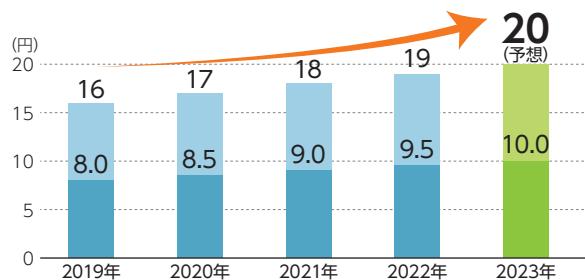
■ 配当金の推移

2023年度中間配当金

1株につき **10円**

2023年度予想年間配当金

1株につき **20円**
(中間10円+期末10円)



配当方針

業績、株主資本配当率(DOE)等を勘案し、安定的かつ継続的に株主さまへの還元を充実していきます。



詳しい情報は静岡ガスのIRページへ

<https://ir.shizuokagas.co.jp/ja/ir/Top.html>

静岡ガス IR

検索

スマートフォンでもご覧いただけます→



今後の株価上昇に期待しています。

株価が安定してきているので安心して保有できます。

株主優待制度の拡充をお願いします。

会社のSDGsについて紹介してください。

一層の地域貢献を期待しております。

デジタルイノベーションの加速を望みます。

社外監査役からのメッセージ

■ 社外監査役

しばがき たかひろ
柴垣 貴弘



略歴

1987年4月
第一生命保険(株)入社

2016年4月
第一生命保険(株)執行役員金融法人部長

2018年4月
第一フロンティア生命保険(株)代表取締役
副社長執行役員

2022年4月
第一生命ホールディングス(株)常務執行役員
第一生命保険(株)常務執行役員

2022年6月
第一生命ホールディングス(株)取締役
(上席常勤監査等委員)(現任)
(株)第一ビルディング監査役(現任)

2023年3月
当社監査役(現任)

企業価値の向上と社会的価値の創造に向けて、 気づきを共有して経営に伴走してまいります

「地域社会の安全・安心を追求するマインドのもと 高い視座で会社のあり方を考える」

私は2023年3月、静岡ガスの社外監査役に就任しました。静岡ガスは、社員に「地域の安全・安心に貢献するというマインド・取り組みが浸透している」という強みがあると認識しています。また、経営の視点では、取締役会等の充実した審議を通じて、ガバナンスが発揮されていると感じています。静岡ガスの取締役や執行役員は、社外取締役、社外監査役の意見等を真摯に受け止めて経営判断に活かしています。伝統ある企業では、過去の成功体験を重視して現在の延長線上で考えがちですが、中長期的な利益成長と企業価値の継続的な向上には、新たな探索領域への挑戦が欠かせません。社内・社外の取締役がともに高い視座で会社の将来を考えて中長期ビジョンを策定、実行していることは、今後のさらなる成長につながるものと認識しています。

「2030年ビジョンの具現化に向けて、 経営層との対話を通じて、気づきを共有していく」

ここ数年、社外監査役に期待される役割が高まっており、リスク管理をはじめとした内部統制システムをしっかりと確認することに加えて、企業価値向上に向けて、経営層としっかりと対話していくことも求められるようになってきました。その中で重要なのは、監査役にはとても多くの情報が集まることから、経営に伴走して気づきを共有し、株主さまから負託された立場としてマルチステークホルダーの期待に応えていくことだと考えています。また、企業価値向上という執行サイドと同じベクトルを保ちながら、サステナビリティの実現に向けた対話にも取り組みたいと考えています。

人口減少を背景に、事業環境は今後も厳しい状況が続くでしょう。しかし、強固な顧客基盤と健全な財務基盤を活かして2030年ビジョンに向けた取り組みを加速することで、さらなる成長を実現できると信じており、私はその実現に向け、対話を通じた気づきを経営と共有できるよう努めてまいります。

当社グループは、2023年3月に「地域貢献基本方針」を策定し、
グループ社員がこれまで以上に地域貢献活動に参加していく方針を定めました。

静岡ガスグループ

地域貢献 基本方針



- ・静岡ガスグループの全社員が、自ら地域貢献活動に参加することで、社会的課題への感度と地域貢献への意識を高めます。
- ・静岡ガスグループは、地域とともに生きる企業として、次の3つの分野を柱として地域活動を積極的に行っていくことで、地域の次世代を担う人材育成に取り組めます。

1 地域社会のより良い未来をつくる「地域づくり」

2 地域の環境保全や安全・安心を推進する「環境・安全・安心」

3 豊かで健全な心と体を育む「文化・スポーツ」

富士市・静岡県と森づくりに関する協定を締結、 「シズガスの森」で植樹や保全活動を開始

当社グループは、2023年3月に富士市および静岡県と「しずおか未来の森サポーター制度」^(※)に基づく協定を締結しました。本協定をもとに、富士市より富士山南側のふもとに位置する約10ヘクタールの市有林を提供いただき、「シズガスの森」と命名、植樹や保全活動に取り組めます。

4月に森開きを行い、グループ社員とその家族が約1万5千本のヒノキを植樹しました。今後も下草刈りなどの保全活動を行うほか、地域のお客さまを対象とした森林教育などに取り組めます。富士市、静岡県には、森づくりに関する助言や対外的な情報発信など、本活動を後押しいただきます。

植樹したヒノキは、森林由来のCO₂クレジットを創出し、地域内のカーボンオフセットの取り組みに使用するほか、建築用の木材として利用するなど、中長期での活用を進めていきます。

※静岡県が、社会貢献活動として森づくり活動を行う企業・団体を「しずおか未来の森サポーター」として認定し、フィールドや森づくり団体等の紹介、活動のPRなどを支援する制度



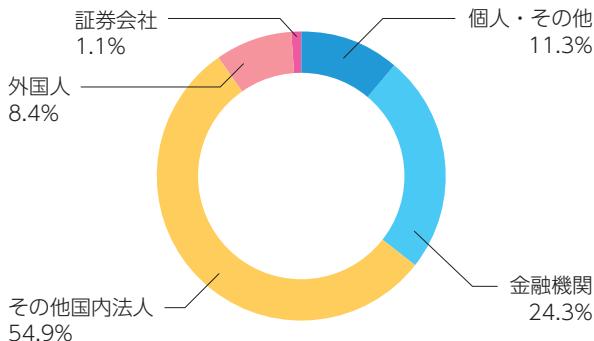
■ 会社概要

会 社 名	静岡ガス株式会社
設 立	1910年(明治43年)4月16日
資 本 金	6,279百万円
事 業 内 容	都市ガスの製造・供給および販売 LPGの販売 発電および電力の販売 リフォーム、ガス機器販売、ガス工事 等

■ 株式の状況

発行可能株式総数	240,000,000株
発行済株式の総数	76,192,950株
株 主 数	4,252名

■ 所有者別株式分布状況



※自己株式(2,013,483株)を控除して計算しております。

■ 株主メモ

事 業 年 度	1月1日から12月31日まで
定 時 株 主 総 会	3月
基 準 日	定時株主総会・期末配当 12月31日 中間配当 6月30日
株 主 名 簿 管 理 人	みずほ信託銀行株式会社 〒100-8241 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
郵 便 物 送 付 先	みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電 話 照 会 先	☎0120-288-324(フリーダイヤル)
公 告 の 方 法	電子公告により公告します。 (https://www.shizuokagas.co.jp) *ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
1単 元 の 株 式 数	100株
証 券 コ ー ド	9543

●住所変更、単元未満株式の買取・買増等について

株主さまの住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

●未受領の配当金について

未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店・全国各支店にてお支払いいたします。

なお、配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと、当社定款の定めによりお支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

●その他のお問い合わせ

静岡ガス株式会社 コーポレートサービス本部 総務部 総務担当
☎054-284-4141

アンケートのお願い

同封のアンケートはがきで、
ご意見・ご感想をお聞かせください。



静岡ガス株式会社

静岡市駿河区八幡一丁目5番38号
<https://www.shizuokagas.co.jp>

